ねえ、つながっちゃお!!
ゆにふぁん活動事例集

第6回

中央労福協「ろうふくエール基金（生活・就労応援基金）」

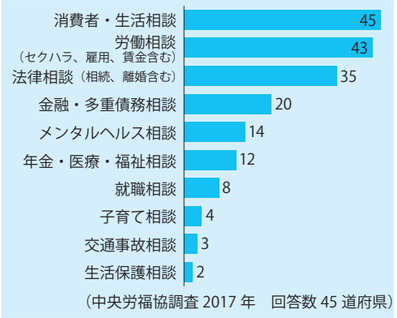
「ゆにふぁん」とは、労働組合独自で展開しているボランティア活動や、地域でお付き合いのあるNPO・NGOなどと連携した活動を〝見える化〟して、個人の意思で活動に参加することや、物資や資金などを支援することができる仕組みです。「支え合うこと、助け合うこと」をもっと身近に、そして社会に広げていきます。第6回は、連合本部推薦の労働者福祉中央協議会（中央労福協）「ろうふくエール基金（生活・就労応援基金）」を紹介します。コロナ禍で仕事や住まいを失うなど、困難を抱えた人たちを支援する活動です。

労働者福祉中央協議会（以下：中央労福協）とは

労働団体、労働者福祉事業団体、地方労福協で構成する、労働者福祉活動のための中央組織です。現在は生活困窮者への支援強化や奨学金制度の改善など様々な社会課題に対して、運動や政策要求、自主福祉活動の両面から取り組んでいます。
また、地域においては、地方労福協が幅広いネットワークのもと、様々な相談を受けるライフサポート活動や生活・就労支援、フードバンク活動の普及・促進などの取り組みを展開しています。

奨学金に関する全国一斉相談（2020年11月6日）

■相談件数の多い分野（上位10分野）（複数回答）



ライフサポートセンターで年間25,000件の相談

コロナ禍での生活困窮者支援の状況

コロナ禍による休業・失業、生活困窮、住居喪失などの困難を抱える相談者。中には身寄りもなく数日間何も食べていない人、困窮のうえ体調不良だが通院代にも困っている人など、相談の現場には悲痛な現実が押し寄せます。
こうした状況で、相談員・支援員たちは感染リスクを負いながら、自らも不安定な雇用の中で急増する相談者に寄り添い、力になるために最前線で奮闘する日々が続いています。

急増する困窮者からの相談に対応する新潟県労福協の相談員

エール基金からの助成に感謝し「よりよい支援に活用したい」と沖縄県労福協のみなさん

ゆにふぁんマップをのぞいて!

コロナ禍の危機を乗り越える！ろうふくエール基金

働く仲間や地域の人たちが連帯し、様々な困難を抱えた人たちを支援するため、2020 年7月より「ろうふくエール基金（生活・就労応援基金）」がスタートしました。広く寄附を募り、この危機を乗り越えるため基金を活用します。

基金の使途

1 緊急生活支援
相談者を公的援助につなげるまでの食料・宿泊等の緊急支援や、就労支援訓練時の交通費など、国・自治体からの補助がない支援活動を助成します。

2 生活困窮者自立支援事業の相談員・支援員への応援
支援者が疲弊し相談崩壊しないために「支援する側」への感謝の気持ちを込めてエールを送り、連帯の応援金を届けます。

3 就労支援、職業訓練、雇用創出、居住支援などの事業への助成
新規事業の立ち上げ、またはコロナ禍に対応した事業の拡充を促進するため、その経費の一部を助成します。

すでにいただいた寄附金を活用し、上記の1～2から助成を開始しました。
緊急生活支援では次のような支援を行いました。

- 数日間食事をとっていない方への食事・宿泊の支援
- 困窮に加え体調不良のため受診の必要があり、通院代、薬代を支援
- 乳児を抱えた外国人世帯が、コロナ禍により仕事がなくなり、ミルク代・おむつ代を支援
- 就職活動に通信手段として必要な携帯電話がないため、貸出用プリペイド携帯電話のチャージ代を支援
- 地元に帰って生活を立て直すため交通費を支援
- 就労準備プログラムの参加者に弁当を支給

など

現在もコロナ禍による雇用・生活への不安は払拭されていません。
助けを求める人たちに持続的に支援を届けるためにも、引き続き皆さまのご協力が必要です。

寄附金のご協力をお願いします

団体名
労働者福祉中央協議会（中央労福協）

プロジェクト名
ろうふくエール基金（生活・就労応援基金）

口座振込のほか、
クレジットカードにも対応しています

相談員・支援員からのメッセージ

「食べるものが無い」「住まいを失った」等の深刻な相談が寄せられています。困窮している方の最低限の生活を何とか守っていきたい。

コロナ禍で感染危険を感じ、精神的に辛く感じることもある中、皆さまの支援の気持ちに、涙が出るほどうれしく感じました。

相談支援員は、心身ともに元気が必要です。皆さまのエールで相談者とともに元気になれるようがんばります。